

平成24年3月8日

江差町議会議長 打越 東亜夫 様

社会文教常任委
委員長 小笠原



委員会の中間報告について

本委員会に付託の調査事件について、会議規則第47条の規定により下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事件

平成23年第3回定例会 発議11号「学校整備に関する事務調査」

2. 調査目的

江差中学校の改築整備について、多様な学習指導形態に対応した施設づくり、今後の教育環境の変化に対応できる高機能・多機能・柔軟性を兼ね備えた施設づくりの方向性について、調査を行うこととした。

3. 調査経緯

平成23年10月12日 第1回委員会

平成23年11月18日 第2回委員会

平成23年12月 5日 第3回委員会

平成24年 1月20日 第4回委員会

平成24年 2月 6日 第5回委員会

平成24年 2月23日 第6回委員会

平成24年 2月27日 管内学校施設視察(今金町立小学校～屋内体育館を中心とした学校施設。乙部町立中学校～木材利用型のエコスクール)

平成24年 3月 2日 第7回委員会

4. 調査結果

[現 況]

江差中学校は、昭和22年5月に開校、その後昭和25年5月に体育館が落成、昭和35年には、校舎の新築を開始し、昭和39年3月に完成しております。また、昭和43年に全面新校舎が落成、昭和55年に体育館を改築しております。

しかし、経年変化による校舎の傷みも目立ち、平成7年から8年にかけて校舎の大規模内外装工事、平成13年には体育館の外壁改修工事も行われ現在に至っています。

施設の老朽化については、当校舎棟施設は、昭和39年、43年に建設された建物であり、筑後40年以上と老朽化は著しく、施設の安全性が懸念されるようになり、平成23年度に耐力度調査を実施しておりますが、耐力度については課題が指摘されており、施設の安全面からも早急に改築を要する



必要性があります。

改築整備計画にあたっては、昭和30年代から40年代前半の学校施設であることから、現在の多様な学習指導形態に対応した教育環境施設という視点からの見直しが求められており、耐力度などの安全面に加えて、今後の教育環境の変化に対応できる高機能・多機能・柔軟性を兼ね備えることを考慮していく必要があります。

〔意見〕

1. 施設の全体及び配置計画

学校施設(校舎・屋内体育館等)として、長期に使用していくことを考えると、これからの教育の変化に対応できる学校施設づくりが求められる。学習形態の変化や情報技術の進展等に対応した、柔軟性のある施設であると同時に、建設後における維持管理費が低減されるよう、電気・暖房システム等における分割集中方式、自然採光の採り入れなどコスト低減対策について、様々な角度から調査・検討を図るべきである。

また、建設地については、用地確保から現在地及び周辺用地(道路・河川)の活用も含めた現在地での建て替えが最善策と考える。施設の配置においては、用地の確保、既存施設の解体、機能重視、更には建設コストの低減等を十分考慮した施設配置とすべきである。

2. 施設の構造及び設備

近年の環境問題に配慮し、環境に優しい施設づくり、環境教育にも活用すると共に、自然災害時には、防災拠点(避難所等)としての役割を果たすなど、地域交流・連携等地域教育力の活用、ぬくもりが感じられる木材等の活用、経年変化に対し十分な耐性を持ち、好ましい状態を維持できる材料、工法等の検討、また、生徒の安心、安全を確保するための警備システム防犯システム導入等についても検討すべきである。

3. 施設の基本設計について

基本設計にあたっては、建設用地の効率・効果的な活用等から、従来の設計料の競争入札ではなく、企画提案型の設計者としての適正・能力等を重視したプロポーザル方式の導入を検討すべきである。

以上、意見を述べたが、江差中学校改築整備計画等への提言・検討要請も含め、今後も引き続き調査を進めていくことを併せて報告し、中間報告とする。